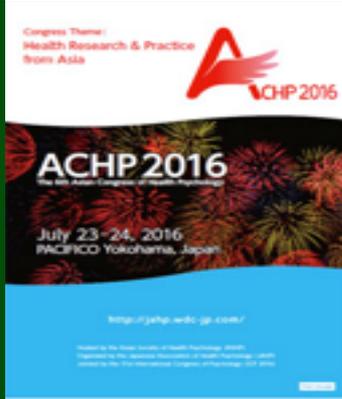


日本健康心理学会メールマガジン No.33



2015年4月21日 第33号

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラムvol.28 労働安全衛生総合研究所 井澤修平先生

1) 学会からのお知らせ <http://jahp.wdc-jp.com/>

■会費納入のお願い

2015年の事業年度が始まりました。日本健康心理学会では、昨年度よりさらに魅力的な事業を展開すべく鋭意努力しています。学会の事業は、会員の皆様の会費収入で成り立っています。

皆様には、早期の会費納入をお願いします。

■日本健康心理学会第28回大会参加・発表申し込みについて

大会申込・発表論文集原稿投稿の受付は5月8日締切となっております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。早めに申し込み手続きをお願い致します。

<http://jahp.wdc-jp.com/conf/28th/index.html>

■第6回アジア健康心理学会議のお知らせ

日程：2016年7月23・24日
詳細は添付ファイルをご覧ください。

■関連学会情報

□Emotions 2015

6th International conference on emotions, well-being and health

開催地：Tilburg, the Netherlands,

日程：25 ~ 27 October 2015

http://jahp.wdc-jp.com/pdf/20150319_Emotionsflyer.pdf

□国際混合研究法学会アジア地域会議 / 日本混合研究法学会第1回大会

混合研究法 (mixed methods research) の国際研究集会在宮城教育大学で開催されます。

基調講演者としてCreswell, JW 他を予定しております。

日程：2015年9月20日～21日 (演題登録期限：2015年5月15日)

<http://www.jsmmr.org/>

2) 健康心理学コラムvol.30

「毛髪や爪からストレスホルモンを測る康」

(独立行政法人 労働安全衛生総合研究所 井澤 修平 先生)

ストレスは健康心理学において一つの大きなトピックスです。ストレスはうつ病や心筋梗塞などを引き起こすこともわかっています。

ストレスがどのような生物学的な経路でこれらの病気の発症に関与するのかは、健康心理学のフィールドで活動する人にとっても、知っておかなければいけない問題だと思います。

そのような中で、私はここ数年、ストレスホルモンとして知られるコルチゾールについて、研究を行ってきています。そこでの最近の注目の話題の一つは、毛髪からコルチゾールを測定することです。毛髪は、生成される際にケラチンにコルチゾールも取り込まれることがわかっています。毛髪は1か月で約1センチ伸びるので、例えば、根元から3センチ部分の毛髪のコルチゾールを測定すれば、最近3か月のコルチゾールを評価できると言われています。

従来であれば、血液や唾液からコルチゾールが測定されてきましたが、これは比較的その時の状態を強く反映する指標です。一過性のストレスよりは、慢性的・蓄積的なストレスが病気の発症に関与することを考えると、毛髪は非常に大きなアドバンテージのある指標です。

なお、私の研究では、手の爪からも同様にコルチゾールの評価をできることがわかっています。爪の試料は毛髪よりも採取が簡単であるため、汎用性がより高いかもしれません。詳細は以下の論文もご参照ください。

<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/25662340>

技術の進歩とともに今までわからなかったことがどんどんとわかるようになっていきます。もしご興味あれば、学会の際などに気軽に声をおかけください。

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更については下記アドレスまで。
日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想については下記アドレスまで。
広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます
<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>